



2020年度 活動報告

樹木・環境 ネットワーク協会

# もくじ

P4. トピックス

P11. 事業別報告

P21. 会員

P22. 役員・職員

P24. 財務報告

2020年度は、コロナに翻弄された1年でした。2021年度もおそらく当面はコロナ禍の中で、活動の制限を余儀なくされる日々が続くものと思われます。皆さまの活動を支えるために協会をどう継続するかという試練に向き合った1年でしたが、そのような中でも、私たちにできることはいろいろあるのだということを学んだ1年でもありました。

会員の皆さまの声をきく場を設け、新しい活動の芽が生まれつつあること、オンラインによってつながるという新しいコミュニケーション方法を知ったことも大きな収穫でした。また、リアルな現場での活動が、どれだけ貴重でありがたいものかということを知ることができました。2021年度はこれらを踏まえ、試練の先に新しい活動を展開していきたいと考えています。

NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会  
理事長 清水 善和

## ミッション

# 人と自然が調和する 持続可能な社会をめざして

人の暮らしと自然の豊かさを保つことを両立し「持続可能な社会」を実現するためには、より多くの人々が自然とふれあい、自然について学び、自然の美しさや重要性を実感することが必要です。私たちはそんな思いを共有する人々に支えられて、活動を展開してきました。人々の思いを集め、森や里山、そして社会へ届けるために集う場所であり続けたい。樹木・環境ネットワーク協会の「聚（しゅう、『集』の旧字体）」という愛称には、そんな思いが込められています。



## 活動目的

森づくりや里山再生、人材育成、普及啓発活動などを実践しながら、「人と自然が調和する持続可能な社会」を目指す。





# 2020年度 トピックス

- TOPICS **1** パートナーズボイスプロジェクト
- TOPICS **2** 嵐山ふれあいの森での挑戦
- TOPICS **3** 新しい寄付
- TOPICS **4** ネットショップのオープン
- TOPICS **5** 社会貢献者表彰

## 事業実績

	2020年度	2019年度
活動回数 <sup>のべ</sup>	25回	62回
参加者数 <sup>のべ</sup>	589名	2816名
指導者数	73名	243名

※GS、会員、一般・外部講師含む

※環境コミュニケーション事業、グリーンセイバー事業に該当する活動



## TOPICS 1 パートナーズ・ボイス・プロジェクト

当協会の使命は、自然と共生する持続可能な社会をつくりたいという志をもった人々に、活動の場と機会を提供すること。活動の主役は会員やグリーンセイバー、企業や行政、団体等、志を同じくする多様な人々であるはず。創立から25年たったいま、団体を立ち上げたときの思いに立ち返って、ひとりひとりのやりたいことを一緒に実現するNPOにしよう。「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」はこのような思いからスタートしました。

ホームページでのアンケート募集を経て、2020年9月22日（火・祝）、2021年1月16日（土）の2回、オンライン意見交換会を実施。参加者からやりたいこと、計画していること、地方の事例やこれまでの体験談など、いろいろなお話を聞くことができ、いくつかは具体的に動き出しました。

これらのプロジェクトをサポートしながら、今後も定期的に意見交換会を実施し、皆さんの声を反映した活動を推進します。



## TOPICS 2 嵐山ふれあいの森での挑戦

嵐山ふれあいの森では、「地球自然いのちへ助成金」の助成を機に、新しい活動を開始しました。これまで整備の対象としてこなかった藪化した湿地帯に手を入れ、水辺の生態系を身近に感じられるビオトープへと整備しました。“水と水路の創出”は、まずポンプを使った池の水抜きを行い、湿地帯の下草刈り、枯損木の伐採等を行いました。最後の仕上げは、湿地帯に木道を整備しました。今後はさらに人が休めるベンチを作ると楽しい空間になるはずです。

雑木林の整備には、三輪フィールドのメンバーにも協力をしていただきながら作業を行いました。フィールド間の交流も生まれ、新たな活動のきっかけとなりました。明るくなった湿地帯の池に昆虫等が来る日を願いながらの活動は、楽しい半年間でした。これからも、子ども達が訪れる良い空間を作っていきます。

また、越谷市からの委託で、伐採したスギ材を使ったSDGsのピンバッジを制作。県産材のバッジとしてSDGsの普及に活用されています。

# RETURN



# NATURE

森が奏でる音楽に耳を傾ける動物たちを描いたイラストで当協会の活動を表現した「JAMMIN」のTシャツ。

## TOPICS 3 新しいチャリティーのかたち

毎週ひとつの団体とコラボし、オリジナルアイテムを販売するチャリティーブランド「JAMMIN」のキャンペーンに参加。8月31日（月）から1週間、オリジナルデザインのTシャツやグッズを販売し、売り上げの一部をご寄付いただきました。オーガニックコスメブランド「メルヴィータ」では、容器の回収と再利用、そしてステッカーの販売によるご寄付をいただきました。自然電力100%の電力を供給する「ハチドリ電力」では電力の売価の一部が当会の活動支援につながります。

「JAMMIN」とのコラボでは、1週間限定の発売期間中に、SNSで着用写真をアップするなどキャンペーンを展開。会員の皆さんにもご協力いただき、目標を上回る計157150円のご寄付を達成しました。それぞれの活動により寄付を得られたことも大きい成果となりましたが、会員のメンバーシップを醸成したり、これまで接点のなかった方に、当協会の活動を知ってもらおうきっかけにもなりました。





里山のめぐみ  
**TAMATEBAKO**  
自然を楽しむオンラインショップ

こちらで提供中



## TOPICS 4 オンラインショップの開店

2020年度、グリーンセイバー検定のリニューアルに伴い一新された公式テキストの販路拡大をめざして、オンラインショップを開店しました。Yahoo!ショッピングでは「TAMATEBAKO」という名称でショップを開店。グリーンセイバーのテキストだけでなく、自然の魅力や面白さを発信する商品を販売。受検・受講の申込みもこのサイトからできるようになりました。

また、Amazonでもテキストの販売をスタート。販売にあたりISBNやJANコードなども取得し、一般書店での販売も可能になりました。Amazonでは、聚レターを電子書籍として購入することもできます。



表彰式の式典にて

## TOPICS 5 社会貢献者表彰の受賞

第55回『社会貢献者表彰』を受賞いたしました。これまでの継続した保全活動や人材育成の功績が認められたもので、ひとえにご支援をいただいていた皆さまのおかげです。式典では活動について報告させていただき、また他分野の社会貢献者との交流もできました。これからも、より有意義な活動を推進していけるよう努力いたします。このような名誉ある受賞ができましたことを、あらためて皆さまにご報告するとともに感謝申し上げます。



# フィールド事業



13箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。



- 里山の保全・再生・活用
- 都市の緑を守り育てる
- 宿泊型ワーキング

## 関東エリア

- 1. 上野動物園 緑化ボランティア
- 2. 町田 三輪里山
- 3. 多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 4. 武蔵野の森から学ぼう
- 5. 千葉おぐらの森
- 6. 嵐山ふれあいの森
- 7. 二宮蜜柑倶楽部
- 8. 八ヶ岳ワーキング

## 関西エリア

- 9. 交野森フィールド
- 10. 南星台フィールド
- 11. レッツ久宝探検隊・自然学習ゾーン
- 12. 御杖村フォールド
- 13. 和歌山ワーキング



20年度は新型コロナウイルスの影響が大きく、当会のフィールド活動にも大きな影響を与えました。4月から2か月間、緊急事態宣言下では活動を休止し、以降も参加者を制限するなどの対策を講じながら活動を実施してきました。

そのような中でも、次のような新しい取り組みが始まりました。

● 町田市「本町田宿ふるさとの森」に登録された養運寺所有の里山林の整備活動が始まりました（20年10月スタート）01001

● 嵐山フィールドでは、三輪里山フィールドのノウハウを借りる形で間伐を行いました。このような協力体制は今後各フィールド間で積極的に取り組んでいこうと考えています。

● CSR活動や近隣の人たちとも交流しながら活動を展開していた「交野南星台フィールド」が終了し、「奄山(えんざん)ふれあいの森」の活動へ移行します。

● TAMAZOでは、通常エリア以外での園内の環境づくり（ホタル水路）での整備活動にも取り組みました。

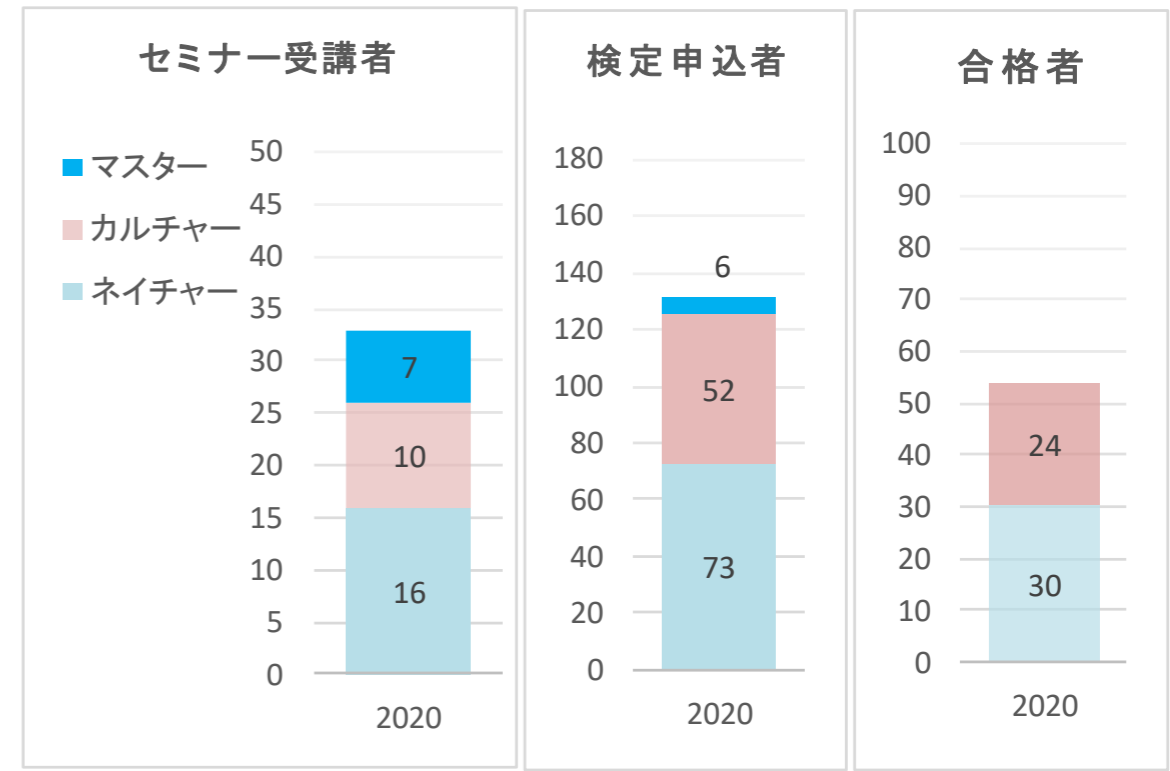
2020年度活動回数（全フィールド）	126回
参加者	1213人

# グリーンセイバー事業



## グリーンセイバー資格検定

2020年度から新しい科目ネイチャー・カルチャーを開始しました。受験日もこれまでの6月から8月になりました。新しいテキストは順調に販売数が伸び、コロナ禍のなか、セミナーも全てオンラインでの開催ができました。東京、大阪の会場のほかに、岡山での会場も設定しましたが、コロナ禍の影響により、受験者数は伸び悩みました。



## グリーンセイバー企画

グリーンセイバーが企画するイベントも、コロナの影響で19の企画のうち、12の企画が中止になりました。

●これからはじめる自然観察  
自然に興味はあって、もっと知るために一歩踏み出したいという方向けの気楽に参加できる観察会。

3回実施 参加者26名 GS10名

●自然と親しむ講座  
自然に関する知識やノウハウをもう少し深く学びたい、ステップアップしたい方向けの講座的プログラム。

3回実施 参加者32名 GS7名

●子どもわくわくプロジェクト  
青少年を対象とした自然の不思議や魅力を五感で楽しむ自然体験プログラム。

1回実施 参加者6名 GS1名

●GSyoutubeチャンネルの開設  
Youtubeによるイベントの配信を開始しました。

## GS研修・勉強会

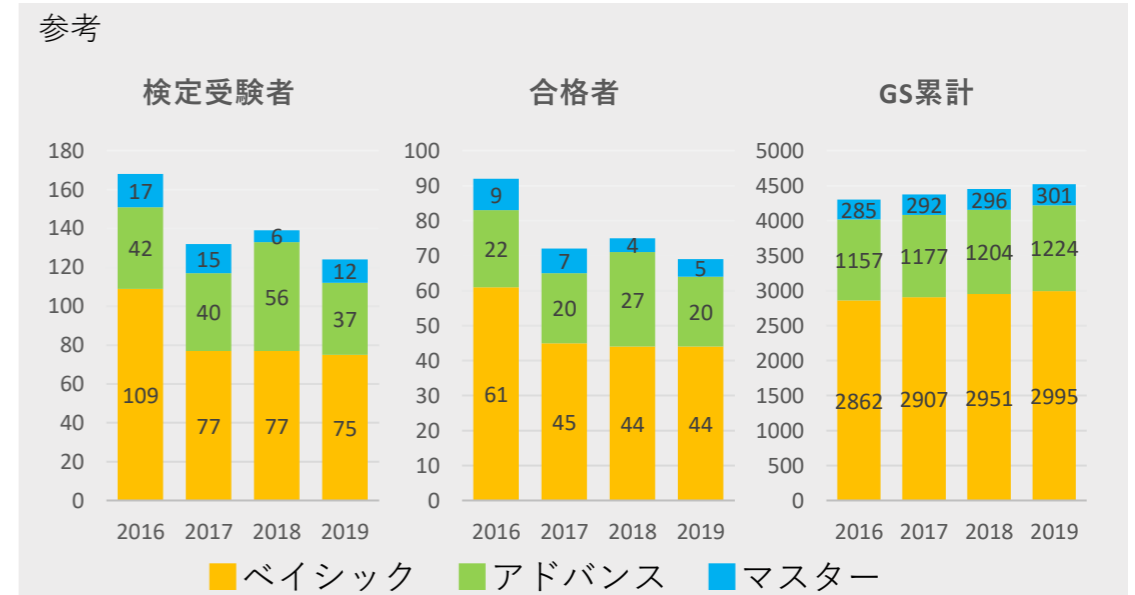
グリーンセイバーによる自主的な学習の企画は、オンライン方式をフルに活用して実施されました。

- ひとり一木
- フェノロジー研究会
- 植物育苗勉強会
- 登山
- ムササビ観察
- セミ研修

今年見たかったのは、コレ  
Q「冬芽をいつつけるの？」A「8月！」

7月11日 8月6日

フェノロジー研究会



フェノロジー研究会やひとり一木の様子



GS企画や研修会

# 環境 コミュニケーション事業

取  
手  
森と人を繋ぐ

新型コロナウイルスの対策により、多くの活動を自粛・中止することとなりました。オンラインでの講座や観察会を実施してきました。

- 【フィールドでの受入れ】 1件
- 【環境イベントの協働実施等】 6件
- 【森づくり関連】 2件
- 【研修や授業の実施】 3件
- 【所有緑地の管理・活用】 1件
- 【オンライン研修等】 3件
- 【環境ツールの制作、企画展示】 3件

参加者 約525名  
 (累計 ※不特定多数はカウントしていない)  
 実施にあたり関わった指導者(累計)  
 GS 55名 / 会員0名 / 一般・外部講師0名



## 東京ガスPR用プレゼン資料制作

当会は、東京ガスのLNG基地で、2009年から生物多様性の調査・検討を継続してきました。2020年度は、袖ヶ浦LNG基地における生物多様性の取組に関するPR用のプレゼン資料を制作しました。東京湾で、基地の緑地は貴重なグリーンベルトの一部になっており、適切に維持管理することで、生物多様性を向上させていることを、来場者に伝えられるよう工夫しました。

## 流山市での小学校総合学習支援

8年ほど継続している小学4年生の総合学習支援です。コロナ禍のなかで子どもたちが地元の川の水質、自然のことを学ぶ機会を失うことがないようにと、市や学校の先生方の思いもあり、感染に留意しながら授業の支援を行いました。年3回の活動が2回になってしまいましたが、それでも子どもたちにとっては水辺の環境を知る貴重な機会となりました。

## ライオンズクラブの森

埼玉県嵐山町で、東京シティライオンズクラブにより、森の保全活動がスタートしました。当会は、活動時のアドバイザーとして協力し、活動のスタートをサポートしています。嵐山ふれあいの森とも隣接し、今後連携した活動も期待されます。

## オンラインでの講座・観察会

企業からの依頼で、オンラインでの環境講座を実施しました。CO2削減と森の関係をメインテーマとし、多くの方に参加していただきました。またZOOMを使ったライブ配信で観察会を実施しました。Youtubeでの動画配信も実施し、オンラインでの活動も実施してきました。

## 展示・フライヤの作成

渋谷区の施設や企業からの環境に関する展示やフライヤー（配布物）の資料作成を受託しました。当会の知見を活かした成果物を提供することができました。



# 行政との 協働・委託事業

取  
森と人を繋ぐ

## 海の森公園ボランティア

東京都港湾局の事業で海の森公園（予定地）でのボランティア活動のコーディネートを受託され、定例的な海の森での活動をボランティアの皆さんと共に進めてきました。ボランティア考案の「どんぐりロード」は国内のどんぐり全種が実る道を海の森に作ろう！とはじまったプロジェクト。20年度はどんぐりロードに計画上すべての樹種を植えることができました。またボランティア育成の一環でインタープリター養成の研修や都内公園の交流なども実施、多様な活動を展開してきました。海の森はTokyo2020を経て公園化される予定です。

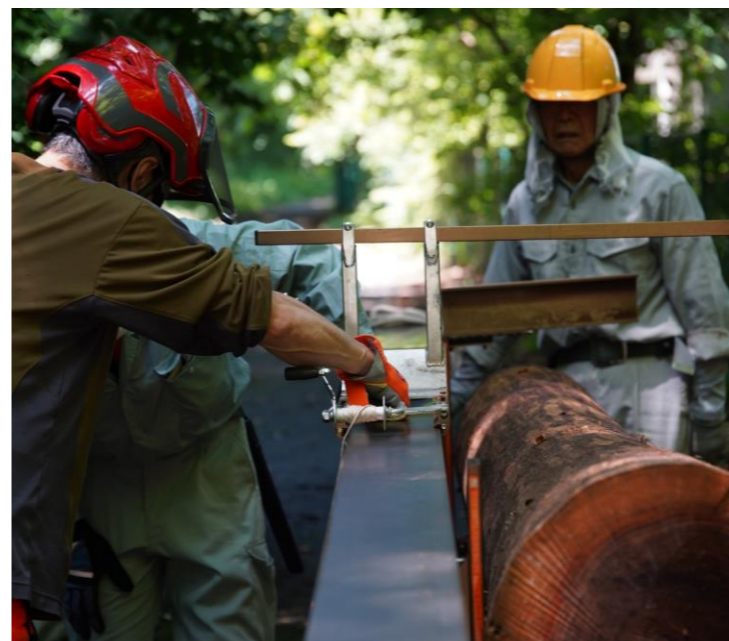


## SDGsピンバッジの制作

越谷市からの委託で、SDGsの普及を目的としたピンバッジを制作しました。制作にあたっては、嵐山ふれあいの森と協力し、埼玉県内の木材を使用しました。杉の伐採、乾燥、フリッチ材への製材までをフィールドで行いました。SDGsピンバッジはその後市の職員が使用するだけでなく、県庁への普及へと展開しました。ピンバッジは嵐山ふれあいの森の成果物として当会でも寄付の返礼品として扱っています。財源としては森林環境譲与税が使われています。

## 指定管理者への挑戦

当協会ではこれまで指定管理の実績はありませんでしたが、これまでの実績から、地域の住民にとって身近な緑地である公園等を拠点とした活動の展開を目指しています。その一環として指定管理制度に則った展開への挑戦をはじめました。2020年度は、地方自治体への団体登録とその準備を進めました。



# 広報・運営

## 多様なツール、メディアの活用

ホームページ、聚レター、パンフレット、メルマガ、各種SNS等を駆使して、最新の活動情報、イベント告知、活動報告などを発信。より多くの方に読んでいただけるよう、聚レター電子版のAmazonでの発売も開始したほか、ラジオ番組やオンラインイベントへの出演など、様々なメディア、機会を活用して、情報発信を行いました。

## 表彰等による認知度のアップ

2020年度は、公益財団法人 社会貢献支援財団「社会貢献者表彰」の受賞、総務省がテレワークの導入・活用実績のある企業・団体を選出する「テレワーク先駆者百選」に選ばれるなど、当協会の活動を評価していただく機会に恵まれました。皆さまのご支援に感謝するとともに、今後も活動の社会的認知度アップに努めます。

## 会員の声を反映した運営

「パートナーズ・ボイス・プロジェクト オンライン意見交換会」を2回実施。地方の会員同士の交流が進み、そこから生まれた新しいプロジェクトが動き始めています。会員の声をより反映させやすい運営体制の構築に取り組みました。

## 寄付を募るための取り組み

オリジナルデザインのTシャツやグッズを販売するチャリティーブランド「JAMMIN」とコラボし、計157150円の寄付を達成しました。電気代の1%を寄付できる電力会社「ハチドリ電力」や、オーガニックコスメブランド「メルヴィータ」のサステナブルキャンペーンに支援先として参加、ご寄付いただいた方への返礼品の種類を増やすなど、ご寄付を募るための取り組みを行いました。

## 広報 運営

第2回意見交換会  
2021年1月16日(土)に、パートナーズ・ボイス・プロジェクト第2回意見交換会をオンラインで実施しました。参加者は事務局、理事を含めた計14名。地方の事例や体験談など、いろいろなお話を聞くことができました。

進捗報告・事例紹介

1. 仙台・八木山テラス(菅原さん)  
東北での活動の足掛かりとして、仙台市八木山にある「八木山テラス」の緑地保全活動に個人として参加。地元在住のグリーンセイバーの参加を促し、そこでネットワークを作り、今後の展開につなげることを考えている。



SHU  
Letter

- No.156 -  
2021.03.20



特集  
10年目の3.11

から年4回、2泊3日でヒノキ林の間伐や植生調査などをおこなっている。有志で建てたログハウス(約15名宿泊可能)が拠点。昨年、ログハウスの隣接地(約450坪)を山本顧問が購入。この土地の活用を模索する中で、周辺住民とのつながりもできたので、新たな活動を準備したいと思っている。

TAMATEBAKO(川端さん)  
ヤフーショップの中にストアを開店。自然素材、工芸品、クラフト素材、山野草の苗、里山関連グッズ、テキストなどを販売している。地域で眠っている民芸品に光を当てたり、間伐材の薪など、フィールドから出るものも商品化もできたらと考えている。



聚レター電子版

## 運営会議の定期開催

協会の事業・運営体制を強化するため理事と事務局による運営会議を1~2か月に1回開催し、収支状況や運営面の課題について議論をする場を設けています。

## オンラインショップの開店

Yahoo!ショッピング「TAMATEBAKO」、とAmazonに出店しています。TAMATEBAKOでは里山の自然素材やGS関連の製品、AmazonではGSのテキストの販売を開始しました。販路の拡大と収入の増加を目的としています。



JAMMINチャリティーTシャツ



寄付返礼品







GS登録 49%  
(232名)

正会員 (計436名)

個人会員	364名
家族会員	42名
団体会員	9団体
法人会員	21社

準会員 (計17名)

賛助会員	15名
ユース会員	2名

入会 50名 退会70名

18年～20年末まで行ったキャンペーンによる入会155件ありました。ご協力いただきありがとうございました。  
 継続して会員になっていただいている方は33%。  
 退会の際、アンケートも継続して行っています。  
 会員を増やす、退会を減らすためにこの結果を分析し今後の活動にも活かします。

法人会員

- 株式会社アテナ
- 株式会社エスパシオ
- NECネットエスアイ株式会社
- 株式会社新生銀行
- 株式会社昭栄
- 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
- 株式会社高橋総本店
- 東京ガス株式会社
- 東京ガス不動産株式会社
- 株式会社東京吉兆
- 東京シティライオンズクラブ

- 凸版印刷株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 株式会社ナカムラ・コーポレーション
- 株式会社日本設計
- 株式会社パラッツオ東京プラザ
- 株式会社美交工業
- 株式会社ひむか造園土木
- 三井住友海上火災保険株式会社
- 株式会社ユーエム工業
- 株式会社ローソン

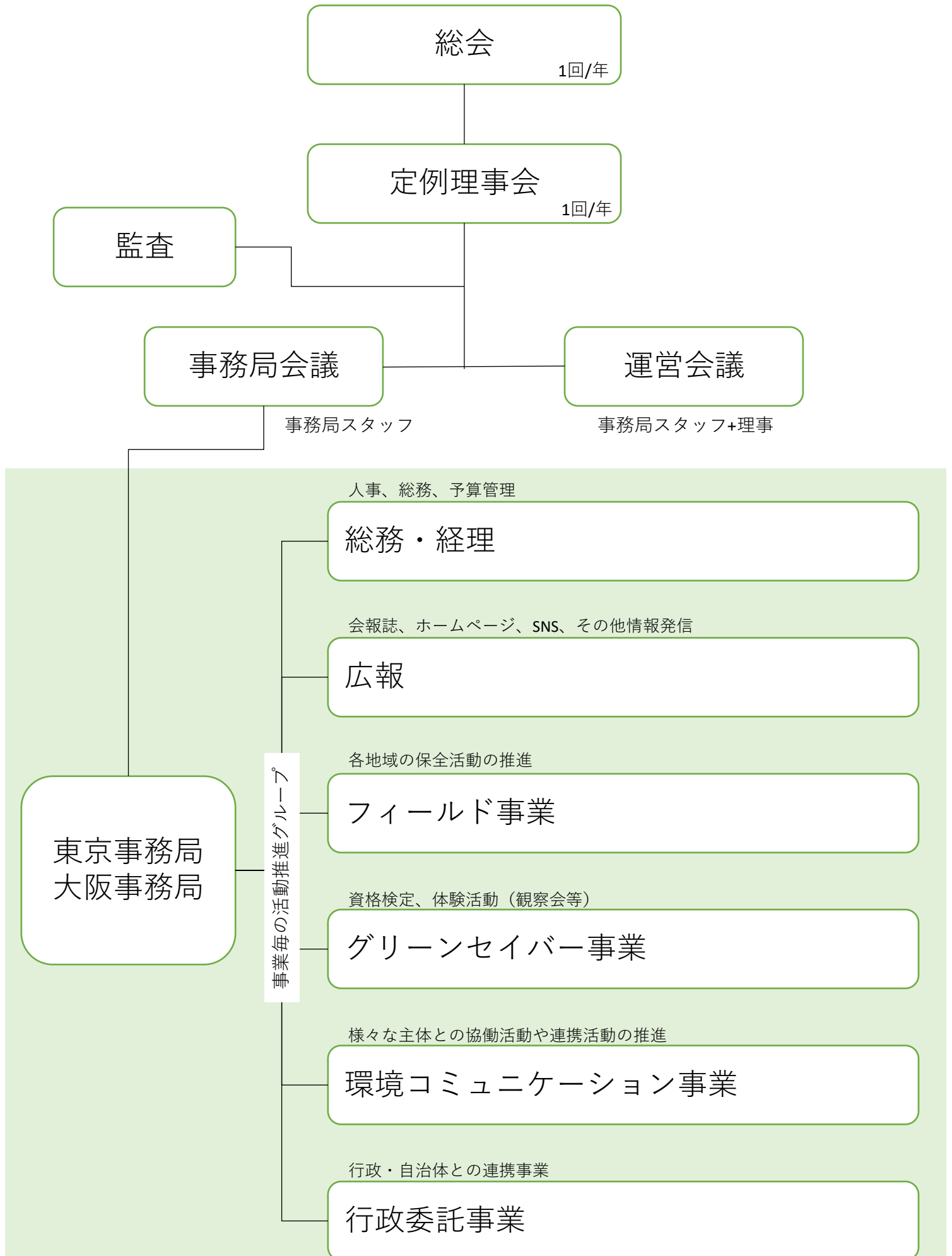
- 【最高顧問】池田 武邦
- 【顧問】山本 光二
- 【顧問】澁澤 寿一
- 【理事長】清水 善和
- 【副理事長】川端 自人
- 【専務理事】佐藤（中西） 由美子
- 【理事】飯塚 勇
- 【理事】伊藤 晴康
- 【理事】大川 英登
- 【理事】岡本 俊彦
- 【理事】片山 雅男
- 【理事】中島 伸二
- 【理事】後藤 洋一
- 【理事】塚本 秀貴
- 【理事】広瀬 攻
- 【理事】藤井 英夫
- 【理事】渡辺 順彦
- 【監事】三尾 隆志
- 【監事】吉田 寛
- 樹医
- 前理事長
- 駒澤大学総合教育研究部教授
- グリーンセイバー・マスター
- グリーンセイバー・マスター
- 株式会社丸原ホールディングス代表取締役
- 有限会社ゼフィルス 代表取締役
- 御杖村フィールドリーダー
- グリーンセイバー・マスター
- 夙川学院短期大学児童教育学科教授
- 東京ガス株式会社 サステナビリティ推進部長
- 事務局長
- グリーンセイバー・マスター
- 三輪里山フィールドリーダー
- トヨタ自動車株式会社 先進技術開発カンパニー 環境部
- 株式会社アテナ 取締役会長
- 公認会計士
- 公認会計士 公会計研究所 代表

## 【事務局スタッフ】

- 専務理事 中西 由美子
- 理事・事務局長 後藤 洋一
- スタッフ（東京） 種池 真依子
- スタッフ（東京） 石崎 庸子
- スタッフ（東京） 加藤 武
- スタッフ（東京） 陣野 益実
- スタッフ（大阪） 山本 睦子



# NPO法人樹木・環境ネットワーク協会 運営・組織図



# 2020年度 財務報告

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」  
『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

## 収支・成果報告

発生費用の部: 活動のためにかかった費用		非営利活動		2020年度合計
		2019年度	2020年度	
事業費	総務・管理	¥3,464,338	¥3,656,738	
	広報	¥3,770,946	¥3,517,021	
	グリーンセイバー事業	¥4,230,181	¥3,679,904	
	フィールド活動事業	¥6,160,918	¥4,050,452	
	環境コミュニケーション事業	¥13,578,240	¥7,797,224	
税金	法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000	
棚卸高	期首商品棚卸高			
	期末商品棚卸高			
<b>発生費用合計</b>		<b>¥31,354,623</b>	<b>¥22,851,339</b>	<b>¥22,851,339</b>
費用負担の部: その費用は以下のように負担しました。		非営利活動		2020年度合計
		2019年度	2020年度	
受取会費	会費負担分	¥3,890,000	¥3,836,000	
受取寄付金		¥1,115,341	¥2,697,341	
受取助成金		¥0	¥400,000	
事業費収入	グリーンセイバー事業	¥2,691,781	¥2,614,754	
	フィールド活動事業	¥4,549,192	¥3,371,154	
	環境コミュニケーション事業	¥15,043,838	¥7,344,986	
事業外収入	雑収益・受取利息	239,330	¥2,651,217	
<b>費用負担額合計</b>		<b>¥27,529,482</b>	<b>¥22,915,452</b>	<b>¥22,915,452</b>
<b>当期正味財産増減額</b>		<b>△¥3,825,141</b>	<b>¥64,113</b>	<b>¥64,113</b>

2020年度 グリーンセイバー企画による収支は、収入21,000円 支出22,540円となっています。

## 貸借対照表

(単位 :円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>I 資産の部</b>		<b>II 負債の部</b>	
<b>1 流動資産</b>		<b>1 流動負債</b>	
現金	90,823	未払金	2,128,130
普通預金	2,046,366	前受金	3,208,000
郵便振替口座	760,418	預り金	54,663
未収金	5,561,819	仮受金	281,267
前払金	63,180	<b>流動負債合計</b>	<b>5,672,060</b>
前払費用	162,800	<b>2 固定負債</b>	<b>0</b>
<b>流動資産合計</b>	<b>8,685,406</b>	<b>負債合計</b>	<b>5,672,060</b>
<b>2 固定資産</b>		<b>III 正味財産の部</b>	
有形固定資産		前期繰越正味財産	3,378,434
車両・運搬具	453,600	当期正味財産増減額	64,113
減価償却累計額	△453,599	<b>正味財産合計</b>	<b>3,442,547</b>
<b>有形固定資産合計</b>	<b>1</b>		
無形固定資産			
商標権	74,000		
敷金	355,200		
<b>無形固定資産合計</b>	<b>429,201</b>		
<b>固定資産計</b>	<b>429,201</b>		
<b>資産の部合計</b>	<b>9,114,607</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>9,114,607</b>

# 寄付・助成金

## 寄付 助成金

新型コロナウイルスの影響で多くの事業が縮小・中止になり、運営面で大きな課題が出ている中、多くの支援をいただきました。  
ご支援いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

2020年度の寄付および助成金等の実績は以下のとおり

### ●寄付

個人の寄付 **54件** **合計283,098円**

法人・団体の寄付

- ・社会貢献支援財団 fesco
- ・リコージャパン株式会社 FreeWill
- ・ナチュラルプランツ
- ・ジャンボインターナショナル
- ・(株)昭栄

**5件** **合計963,950円**

チャリティ

- ・JAMMIN (チャリティTシャツ)
- ・Melvita (ステッカー&リサイクル瓶)

**2件** **合計461,520円**

寄付プログラム

- ・朝日ライフセットマネジメント「あすのはね」
- ・KDDI「キボウノカケハシ」
- ・SoftBank「つながる募金」
- ・(株)ブギ「Book募金」
- ・ボーダレスジャパン「ハチドリ電力」

**5件** **合計988,773円**

### ●助成金

- ・東京しごと財団
- ・国土緑化推進機構
- ・「地球・自然・いのちへ」真如苑助成金

**3件** **合計1,795,567円**

### ●給付金

持続化給付金  
家賃補助給付金

**2件** **合計2,651,198円**

個人情報保護の観点から個人名の記載は控えております。あらかじめご了承ください。

# 監 査 報 告 書


特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の  
2020年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内  
容を適切に反映していると認めます。

2021年5月25日

特定非営利活動法人  
樹木・環境ネットワーク協会

監事 三尾隆志 

三尾隆志

監事 吉田寛 

吉田寛



## 団体概要

### 【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会  
設立 1995年9月19日  
ホームページ <https://www.shu.or.jp/>



### ○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6  
日本分譲住宅会館ビル8階南  
[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448  
[Mail] [info@shu.or.jp](mailto:info@shu.or.jp)

### ○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号  
[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247  
[Mail] [kansai.syu1@nifty.com](mailto:kansai.syu1@nifty.com)  
[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>